

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	59 人	算数	61 人	理科	60 人
第5学年	国語	55 人	算数	55 人	理科	55 人

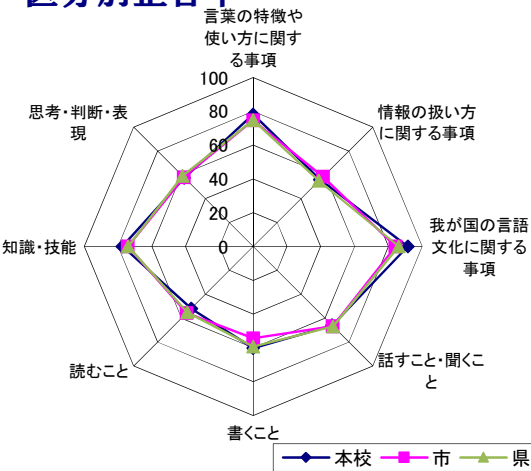
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.2	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	55.9	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	91.5	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	66.1	66.7	66.9
	書くこと	60.2	54.3	59.3
	読むこと	51.9	55.6	55.2
観点	知識・技能	77.4	74.1	74.0
	思考・判断・表現	57.5	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

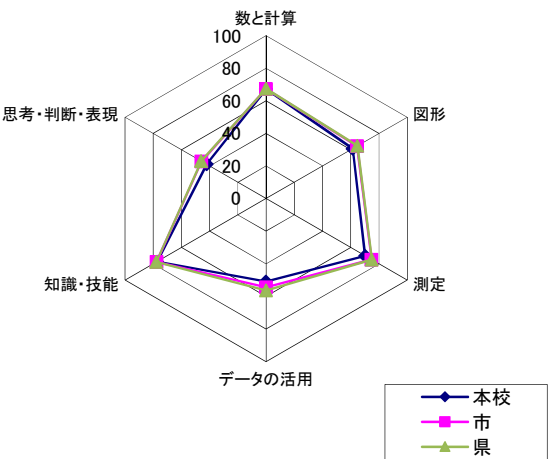
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○漢字の書きや、文の中における主語と述語との関係を捉える設問の正答率が高い。漢字練習の反復や、助詞に着目して文の構造を捉えることを繰り返し実践してきた成果だと考えられる。 ●漢字の読みや、ローマ字の正しい表記を選択する設問の正答率が低い。漢字の読み書きや熟語としての使い方を確認する方法やローマ字に慣れ親しむことに課題があると思われる。	・漢字を熟語として活用するなど同じ漢字でも複数の読み方があることを理解させ、文中で漢字を正しく活用できるようにしていく。 ・パソコンで文字を入力する機会を意図的に多く設定することでローマ字の表記に慣れ、正しく活用できるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を下回ったが、県の平均をやや上回っている。 ●国語辞典の使い方を理解し、適切に使うことに関する設問での正答率が低い。文中で使用される言葉の意味を考えることに課題があると思われる。	・国語辞典を扱う場面を多く設定すると共に、その語句の前後の文から文中で使用される言葉の意味を考え、正しく選択できるようにさせる。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○漢字のへんやつくりに関する設問の正答率が高い。日常的に辞書を活用する授業づくりに努めてきた成果だと考えられる。	・漢字を学習する際に漢字辞典を利用し、成り立ちや部首に着目する学習を今後も継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均をやや下回っている。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える設問の正答率がやや高い。理由などの根拠をもって説明する活動を効果的に取り入れた成果であると思われる。 ●司会者としての話し方の工夫や考えをまとめる役割について理解したり、相手に伝わるように理由を挙げながら話したりすることに関する設問の正答率がやや低い。司会者としての役割を理解することに課題があると思われる。	・相手に分かりやすく伝えるための話し方の工夫について考え、小グループや学級全体などで話し合う機会を意図的に設ける。また、司会者として参加者の意見をまとめる経験をさせるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均を上回っており、県の平均に対してもやや上回っている。 ○2段落構成で文章を書く設問や自分の考えを明確にして書く設問の正答率が高い。条件に合った内容の文章を書く活動を継続的に実施した成果だと思われる。	・テーマを指定したり文型を例示したりして、文章を書く活動を教科横断的に取り入れるなど、今後も継続して実施する。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する設問の正答率が高い。登場人物の気持ちを想像することを重視して授業づくりをしている成果だと思われる。 ●登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える設問の正答率が低い。叙述に着目して登場人物の気持ちを推量することに課題があると思われる。	・直接的に表現されている文章や細かな情景描写などに着目して考えることで、場面の様子や心情を読み取る根拠を明らかにして考えさせるようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.2	67.3	67.4
	図形	61.3	64.5	64.7
	測定	70.1	74.7	74.9
	データの活用	50.8	54.4	56.4
観点	知識・技能	77.2	77.6	77.8
	思考・判断・表現	42.1	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

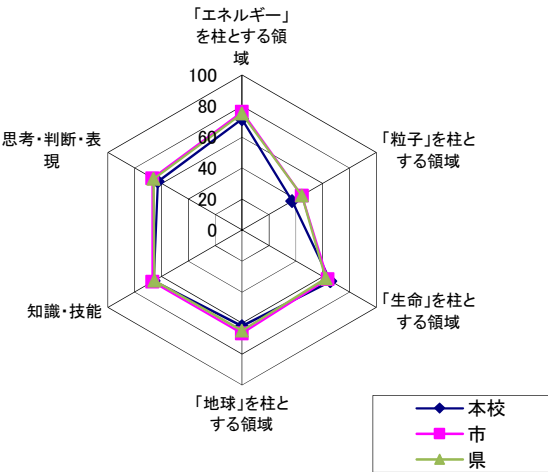
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○3桁+3桁や2桁÷1桁の計算をする問題の正答率が高い。朝の学習の時間を使って基礎基本の習熟を図った成果であると考えられる。 ●数量関係や問題場面を口を使って式や図に表す問題に課題が見られる。	・文章で書かれている数量関係を、図や数直線で表してから立式する場面を多く設定する。また、その逆で、式から数量関係の意味を捉えるような場面も取り入れ、理解を深められるようにしていく。
図形	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○二等辺三角形を作図する問題の正答率が高い。 ●コンパスを使って正三角形が作図できることを証明する問題の正答率が低い。自分の考えを、式や図・言葉を使って説明することに課題が見られる。	・様々な教科において、自分の考えを説明するときの話を意識できるようにし、考えを説明する経験を積めるようにする。また、算数で使われる用語とその意味を正しく理解できるように、授業の冒頭に復習の時間を確保し知識の定着を図る。 ・解き方を機械的に示すのではなく、その意味を丁寧に示していくようにする。
測定	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題の正答率が低い。1目盛りが表す数を考えることに加え、1kg＝1000gなどの単位変換についても課題が見られる。 ●無回答率が高い点が課題である。	・考える時間を十分に確保するとともに、キーワードやヒントカードを示すなど個に応じた支援をすることで、児童が自力解決に向かう意欲を高められるようにする。 ・数直線を使う場面においては、全体量を捉えた上で1目盛りが表す数を導くようにすることで、目盛りを正確に読み取れるようにしていく。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える問題の正答率が低い。1目盛りが表す数値を正しく読み取ったり、複数の棒グラフを比較して考えたりすることに課題が見られる。	・棒グラフだけでなく折れ線グラフや数直線など、目盛りが出てくる学習内容の際に、まずは1目盛りが表す数について意識するように助言する。 ・1つのグラフを様々な視点から捉え、読み取ったことを基に発表したり話し合ったりする場面を設定する。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	71.5	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	37.2	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	65.9	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	62.0	66.6	64.9
観点	知識・技能	65.8	66.8	65.4
	思考・判断・表現	62.7	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●実験の結果をもとに、電気を通す回路を選択する問題の正答率が低い。金属には電流が流れるという知識をもとに、身の回りのものについて電気を通すかどうかを判断することに課題が残る。 ●実験結果から、送風機の風の強さについて考える問題の正答率が低い。車の進んだ距離と風の強さを関連付けて捉えることに課題が残る。	・学習して得た知識を身の回りの現象にあてはめて考えることで、学習と生活の関連を図るようにする。 ・風や電流の大きさなど、目では見えない自然現象を扱う際には、「車が動いた距離＝風の強さ」といったように、実験結果が何を表しているのかを考えさせることで、理解を図れるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●形を変えても粘土の重さは変わらないということを問う問題の正答率が低い。形が変わっても材質が同じならば重さは変わらないという知識の定着に課題が残る。	・材質が同じで形の異なるものを手で持ったり、実際に重さを量ったりする学習を多く設定し、実感を伴った理解を図れるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○アリのあしの付き方を選ぶ問題の正答率が高い。昆虫の体のつくりの特徴を踏まえて、身の回りの生き物を観察してきた成果と考えられる。 ●トンボの育ち方とモンシロチョウやカブトムシの育ち方の違いを述べる問題の正答率がやや低い。比較した際に分かったことを自分の言葉で表現することに課題が残る。	・いくつかの観察・実験結果を比較する際には、共通点や差異点などの視点を児童が意識できるように促し、分かったことについて説明する活動を取り入れるなど、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○太陽の動きを、方位を使って表す問題の正答率がやや高い。理科だけではなく、社会の学習などを通して、方位の表し方に慣れてきた成果と考えられる。 ●太陽の動き方をもとに、午後2時の時に影の位置を選ぶ問題の正答率が低い。方位と高さの両方の視点から太陽の動きを捉え、影のでき方を考えることに課題が見られる。	・太陽の動きを方位と高さの視点から捉えたように、1つの自然事象に対して、いくつかの視点から見つめ、考えを深める活動を意識的に設定する。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と回答した児童の割合が高い。自分の考えを説明したり、少人数で話し合ったりする活動を効果的に取り入れる授業づくりを行っている成果であると考えられる。

○「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」と回答した児童の割合が高い。今後も授業の最後に、本時のめあて・ねらい及びまとめを全員で確認する機会を設定し、授業全体を振り返ることで、学習内容の定着を図れるようにする。

○「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」と回答した児童が6割を超えており、今後も、復習の具体的な取り組み方やその効果を児童に伝えたり、保護者と連携を図ったりしていくことで、引き続き家庭学習の習慣化を促していきたい。

●「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」と回答した児童が市や県の平均を大きく下回った。児童の興味関心を高めるために発問の工夫をしたり、辞典や一人一台端末などを使った調べ活動を取り入れたりすることで、児童の探求心を高める授業づくりに努めていく。

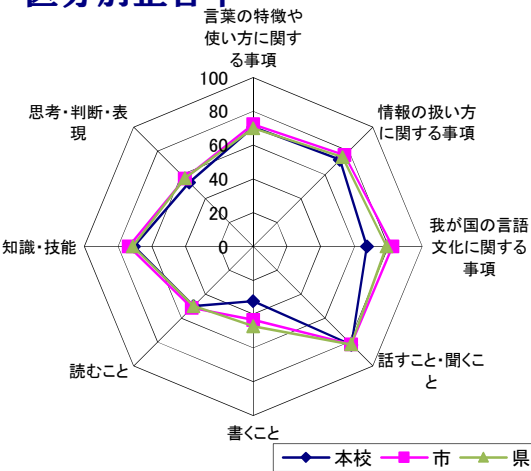
●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」と回答した児童の割合が市や県の平均を大きく下回った。授業において、実生活との関連を意識して題材を取り上げたり、導入を工夫したりすると共に、ICTを効果的に取り入れ、児童の主体的に学習に取り組む意欲を高めていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」と回答した児童の割合が市や県の平均を大きく下回った。授業や行事、係活動等を通して、協力し合い成し遂げる場面や、互いに感謝を伝え合う機会を設定し、児童同士の温かい人間関係を築くことで、自己肯定感が高められるようにしていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.7	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	72.7	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	67.3	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	82.3	81.9	82.0
	書くこと	32.3	43.5	47.2
	読むこと	49.8	51.4	49.8
観点	知識・技能	70.6	73.6	71.3
	思考・判断・表現	53.5	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

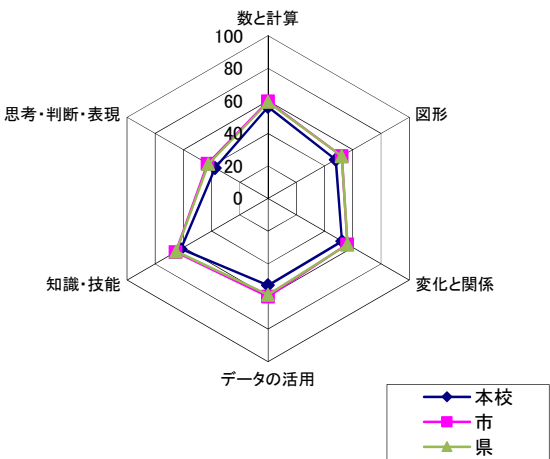
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を下回ったが、県の平均をやや上回っている。 ○漢字の読みや、連体修飾語を選ぶ設問の正答率が高い。朝の活動を利用した反復練習の成果であると考えられる。 ●漢字の書きや、連用修飾語を選ぶ設問の正答率が低い。漢字の書きについては、反復練習の成果が表れていないと考えられ、課題が残る。	・今後も反復練習を続けていくことが肝要である。その中でも、「漢字の読み」よりも「漢字の書き」、「連体修飾語」よりも「連用修飾語」が課題となったことから、反復練習の内容についても課題を克服していけるよう質の改善を図れるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●漢字辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題の正答率が低くなっている。辞典の使い方の定着に課題が残る。	・授業中や家庭学習で漢字辞典や国語辞典を使う活動を意図的に設け、辞典を使うことにより慣れさせていけるようにする。 ・読書や新聞等を読む活動を推奨し、語彙を増やしていけるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●文を読み、適することわざを選ぶ問題の正答率が低い。ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることに課題が見られる。	・朝の学習や家庭学習の課題として、ことわざに触れる機会を意図的に設けていく。 ・学級担任の話の中にことわざを入れたり、「好きなことわざ」の発表をしたりする活動を取り入れたりするなど、ことわざを身近なものと感じられるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均をやや上回っている。 ○話し手の工夫を捉える設問や相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるかをみる設問の正答率が高い。多くの教科において話し合い活動を取り入れてきた成果であると考えられる。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、意見の共通点に着目して、考えをまとめることができるかどうかをみる設問の正答率が低い。	・教科に限らず様々な学習の中で、人前で話す機会を引き続き意図的に設けていく。 ・今回、司会の役割に関する設問が課題となったことから、学級活動なども含めて、話し合い活動をする際には、話し合いの中でどの児童も様々な役割を経験できるよう配慮していく。
書くこと	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●文を書くということに対して「指定された長さで書く」「2段落構成で書く」「内容の中心を明確にして書く」などという条件に対応することができていない児童が多い。 ●すべての設問において市や県の正答率を大きく下回り、無解答率が非常に高くなっており大きな課題である。	・作文に関しては、普段から「○段落構成で書く」「○文字～○文字の間で書く」といったように条件を設定して書く機会を設けるとともに、書いた文章に対して個人ごとに助言を行い、少しずつレベルアップを図っていけるようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均を下回ったが、県の平均と同じである。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有することができるかどうかをみる設問の正答率が高い。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる設問の正答率が低い。	・読書を推奨し、文章を読解する機会を多く設けていけるよう助言していく。 ・問題形式に着目すると、選択式よりも短答式・記述式で解答する問題の方が正答率が低いので、自分の考えを簡潔に表現できるよう、意図的に記述式で答える問題を選択していく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.2	59.7	59.2
	図形	47.9	52.1	52.1
	変化と関係	52.3	56.1	56.3
	データの活用	53.2	60.1	58.9
観点	知識・技能	61.9	65.5	65.1
	思考・判断・表現	37.6	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

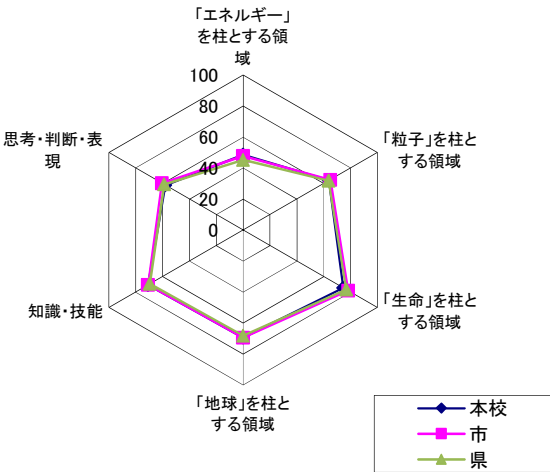
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○小数のしくみを理解しており、小数を集めた数を求める設問の正答率が市や県の平均とほぼ同じである。練習問題に取り組んできた成果であると考えられる。 ●四則混合の計算の順序の理解、小数のわり算、数直線をもとに分数を読み取り大小関係を考察する設問の正答率が低い。また、分数の計算や整数のわり算の正答率も低い。計算の仕方や数のしくみの理解に課題が見られる。	・計算のきまりを再確認し、算数の基礎となる四則計算を整数、小数、分数で確実に正しく答えを求められるように朝の学習や宿題などの充実を図る。 ・分数を朝の学習などで分数の問題に繰り返し取り組むようにし、習熟を図る。
図形	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○ひし形を作図する設問の正答率が高い。 ●三角定規の角度の理解、180度より大きい角度の求め方の理解、年賀はがきの面積と単位の理解、1㎡が何cm²になるかを考える設問、複合図形の面積の求め方を考察する設問の正答率が低い。図形を組み合わせで大きさや面積を考えていくことに課題が見られる。	・身近なものの長さを実際に測定し、面積を求める活動を増やしながら、およその長さや面積をイメージできるようにしていく。
変化と関係	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ○数量関係を捉え、正しく表された図を答える設問の正答率が高い。表を横に見て伴って変わる2つの数量の関係を読み取る設問の正答率が市の平均とほぼ同じである。 ●伴って変わる2つの数量の関係について言葉や数を使って説明する設問、2つの数量の関係をもとの大きさの何倍になったかを考えて説明する設問の正答率が低い。数量関係を言葉や式を使って説明することに課題が見られる。	・問題を丁寧に読むことで意味を理解し、算数の見方・考え方を働かせる授業づくりを工夫することで、立式できるようにする。
データの活用	平均正答率は、市・県の平均を下回っている。 ●2つの折れ線グラフから必要なことを読み取る設問、二次元表を読み取る設問の正答率が低い。表やグラフから読み取ることに課題が見られる。	・算数だけでなく他教科においても、複数の折れ線グラフや二次元表を読み取る機会を増やし、グラフや表から読み取る力をつけていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	48.5	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	64.0	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	74.6	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	69.4	69.5	68.1
観点	知識・技能	70.9	70.8	69.5
	思考・判断・表現	57.9	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える問題の正答率が高い。検流計の使用目的を理解した上で、検流計を用いてきた成果であると考えられる。 ●電流が大きくなる回路を選ぶ問題の正答率が低い。電流が大きくなる条件の理解に課題があると思われる。	・「豆電球の明るさ」「乾電池のつなぎ方」「電流の大きさ」の3つを関連付けて考え、回路と電流の大きさの理解を図れるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均をやや下回ったが、県の平均をやや上回っている。 ○予想が正しかった場合、どのような実験結果が得られるかを問う問題の正答率が高い。実験の際に、自分の考えが正しければ、どのような結果が得られるか、見通しをもって実験に取り組んできた成果であると考えられる。 ●線路のレールについて、季節によってつなぎ目の有無が変化する理由を考える問題の正答率が低い。学習で得た知識を日常生活に当てはめて捉えることに課題があると思われる。	・学習した知識を使って、身の回りの現象を捉える活動を多く設定することで、学習と日常生活との関連を図り、理解を深めるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○腕を曲げた時の筋肉のようすを選ぶ問題の正答率が高い。自分の腕を触って感覚をつかんだり、模型を使って筋肉の様子を視覚的に捉える活動を重視してきた成果であると考えられる。 ●身の回りの生き物の季節による変化を問う問題の正答率が低い。	・身の回りの植物や動物を観察する際には、観察の対象だけでなく、それらをとりまく気温や季節など複数の視点を合わせて総合的に捉えながら観察するようにすることで、理解を深められるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均をやや下回ったが、県の平均を上回っている。 ○星の並び方は変わらないが、位置は変わることを問う問題の正答率が高い。星の観察の際に、個々の星だけに着目するのではなく、星の並び方の視点も意識しながら空間的に捉えてきた成果であると考えられる。 ●排水口が作られる場所を問う問題の正答率が低い。水は高い所から低い所に流れるという科学的事実をもとに、身の回りの事象に広げて考えることに課題が見られる。	・学習に関連している日常の場面を積極的に取り上げ、学習した知識をもとに考える場を意図的に設定することで、学習内容と日常生活の関連を図る。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて勉強したり、毎日同じ時刻に勉強に取り組んでいた。」について、約8割の児童が肯定的に回答している。毎日の課題に自主学習を取り入れている成果が表れてきている。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役立つと思う。」と回答した児童の割合は8割を超えており、キャリア教育や総合的な学習などの調べ学習を通し、探究する楽しさや達成感を感じることが増えてきた成果だと考えられる。

○「授業の中で、目標が示されている。」と回答した児童の割合が約8割となった。日頃の授業の中で、「めあて」や「ねらい」を明確にし、授業を展開している成果が表れてきていると考えられる。

○「早寝・早起きを心掛けている。」と回答した児童の割合が約7割となった。日頃から自分の生活を規則正しく送ろうと意識している様子が伺える。

○「家の人と学校での出来事について話をしている。」や「家の人と将来のことについて話すことがある。」と回答している児童の割合が多く、家族との信頼関係をもとに、学校生活のことや将来のことなどを話題に、児童が家族と積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿につながっていると考えられる。

●「社会の学習は好きですか。」に対する肯定的割合が低い。興味をもてるような内容や視覚的に分かりやすい教材・情報機器を活用するなどして、授業展開の工夫を図っていくようにする。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」と回答している児童の肯定割合が半分以下であり、十分とは言えない状況である。世の中の出来事に関心をもてるよう、家庭と連携を図りながら話題作りをしていきたい。

●「毎日、朝食を食べている。」についてと否定的回答が1割以上見られたので、保護者への啓発をしながら、児童への働きかけも同時に行っていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
協働的な活動の場の設定	ペアや小集団など、ねらいに応じて学習形態を工夫したり、ICTを効果的に活用したりする。	話し合い活動を通して考えを深めたり広げたりできていると感じている児童が増えてきている。
基礎的な知識・技能の定着	朝の学習やスマイルネクストドリルの活用による漢字・計算の反復学習や、習熟度別学習による個に応じた指導を通して、基礎基本の定着を図る。	漢字の読み書きや算数の基本的な計算については、市や県の平均値と近づいてきている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
記述式の問題の正答率が低く、また無回答の児童の割合も高い。	児童の思考を促すために、教師の意図的な働きかけを行う。	学習課題をどのような視点で捉え、どのような考え方で思考すればいいのかを児童が意識できるよう、「見方・考え方」を意識した発問を行う。
自ら学習に取り組む意欲や探究心が低い。	学習課題に対して児童が主体的に取り組むことができるように、学習課題の提示や学び方の工夫を意識して授業を展開する。	学習課題と実生活が関連していることを児童が感じられるよう導入を工夫したり、「どう学ぶか」といった視点を大切にし、教師は「教える」のではなく、「共に学ぶ」という姿勢をもつようにする。